

国東市民病院 臨床研究実施計画書

1. 研究テーマ

急性期前庭障害に対する急性期前庭リハビリテーションの有効性の検討

2. 研究の背景これまでの研究の概要

前庭神経炎(VN)や Ramsay Hunt 症候群に伴う急性の前庭機能障害は、激しい回転性めまいと平衡障害を引き起こし、患者の QOL を著しく損なう疾患である。

急性期前庭障害の治療は、急性期の対症療法、特定の薬物療法、および前庭リハビリテーションに大別され、薬物療法におけるステロイド療法は、早期の前庭機能回復を促進するという報告がある一方で、めまい症状の改善や機能回復において有意な差を認めないとする報告もあり、その治療効果については依然として一定の結論が得られていない。一方、前庭リハビリテーション(VRT)は中枢神経の可塑性を利用した

「前庭代償」を促進し、めまいや姿勢の安定性を改善させるための安全かつ効果的な治療法として確立されている。Kamo ら (2022) の調査によると、日本における

急性前庭神経炎患者に対する院内リハビリテーションの実施率はわずか 7.3%と

極めて低く、脳卒中や大腿骨頸部骨折などの他疾患と比較しても普及が著しく遅れている実情が明らかになっている¹⁾。また入院期間や歩行機能のアウトカムを使用した報告は少ない。

本研究では、発症早期より積極的な前庭リハビリテーションを導入し、後方視的に観察を行い、急性期の前庭障害への治療効果の有効性を検討する

3. 研究の目的

主要目的：急性期前庭リハビリテーションの効果

副次目的：歩行機能の改善、入院期間、使用した医療資源の詳細

4. 研究の方法

(1) 選択基準

(2) 方法：入院期間中に理学療法士による介入、リハビリテーションを行って

いただく。指導内容は、前庭リハビリテーションガイドライン 2024

に準じて 1.頭部運動訓練、2.バランス訓練、3.歩行訓練、

4.慣れを誘導する訓練を中心に、患者の全身状態や基礎疾患なども

踏まえ、個別メニューを作成し行う²⁾。

(3) 検討項目：自覚症状の評価 Visual Analog Scale (VAS) Dizziness Handicap

Inventory (DHI)³⁾、新潟 PPPD 問診票(Niigata PPPD

Questionnaire:NPQ)⁴⁾Activities-Specific Balance Confidence

Scale (ABC scale)⁵⁾、他覚所見の評価 重心動揺検査、

ビデオヒットインパルステスト (vHIT)⁶⁾、自覚的視性垂直位、カロリック検査、前庭頸誘発筋電位(cVEMP)⁷⁾、Functional Gait Assessment (FGA)⁸⁾ Dynamic Gait Index(DGI)⁹⁾、Timed Up &Go Test (TUG)¹⁰⁾ Motion Sensitivity Quotient (MSQ)、荷重量 片脚立位 (時間) 10m 歩行(秒) 歩行に使用するデバイス、入院期間、入院期間の薬剤投与の有無などによりリハビリ参加前後の改善度を比較する。

- (4) 危険性・副作用等 めまい・嘔気の出現や、立位でのレッスン項目の際の転倒などが予想される。無理をさせずにできる範囲でリハビリを進め、注意を要する患者には重点的にサポートにつくようにする。

5. 参考文献

- 1) Kamo, Tomohiko, Ryo Momosaki, Hirofumi Ogihara, Masato Azami, Ryozo Tanaka, Takumi Kato, Reiko Tsunoda, and Hiroaki Fushiki. 2022. "The Utilization and Demographic Characteristics of In-Hospital Rehabilitation for Acute Vestibular Neuritis in Japan." *Auris, Nasus, Larynx* 49 (5): 762–67.
- 2) 一般社団法人 日本めまい平衡医学会 前庭リハビリテーション学会 2024年版
- 3) Jacobson GP, Newman CW: The development of the Dizziness Handicap Inventory. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 116: 424–427, 1990

- 4) Yagi C et al. A Validated Questionnaire to Assess the Severity of Persistent Postural-Perceptual Dizziness (PPPD): The Niigata PPPD Questionnaire (NPQ). *Otol Neurotol*. 2019;40(7):e747–e752.
- 5) Powell LE, Myers AM: The Activities-specific Balance Confidence (ABC) Scale. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*, 50 A: M 28—34, 1995
- 6) 診断基準化委員会. 平衡機能検査基準化のための資料Ⅲ 迷路刺激検査 2 回転刺激検査 D. ビデオヘッドインパルス検査 (2019 年改定).
Equilibrium Res. 2020;79(4):295–297.
- 7) Papathanasiou ES, Murofushi T, Akin FW, et al.: International guidelines for the clinical application of cervical vestibular evoked myogenic potentials: An expert consensus report. *Clin Neurophysiol* 125: 658—666, 2014
- 8) Wrisley DM, Marchetti GF, Kuharsky DK, et al.: Reliability, internal consistency and validity of data obtained with the functional gait assessment. *Phys Ther* 84: 906—918, 2004
- 9) Wrisley DM, Walker ML, Echternach JL, et al.: Reliability of the dynamic gait index in people with vestibular disorders. *Arch Phys Med Rehabil* 84: 1528—1533, 2003
- 10) Shumway-Cook A, Brauer S, Woollacott M: Predicting the probability for falls in Communitydwelling older adults using the Timed Up & Go Test. *Phys Ther* 80: 896—903, 2000

6. 研究期間

2026 年 2 月 24 日 ～ 在職期間中 (研究責任者)

7. 研究責任者 耳鼻咽喉科 平岡 晃太